

ウシオの今と未来をお伝えする

P R I S M

第50期中間報告書

[2012年4月1日～2012年9月30日]

2012年11月発行

株主・
投資家の
皆さまへ

光のものがたり

光でスマート。



CONTENTS

- | | | |
|--------------------|-------------------|----------|
| 2 光のものがたり | 8 セグメント別の概況 | 12 連結決算 |
| 4 光テクノロジー & フロンティア | 10 第50期第2四半期の事業概況 | 14 株式の状況 |
| 6 株主の皆さまへ | 11 グループトピックス | 15 会社概要 |

USHIO

ウシオ電機株式会社

光でスマート。

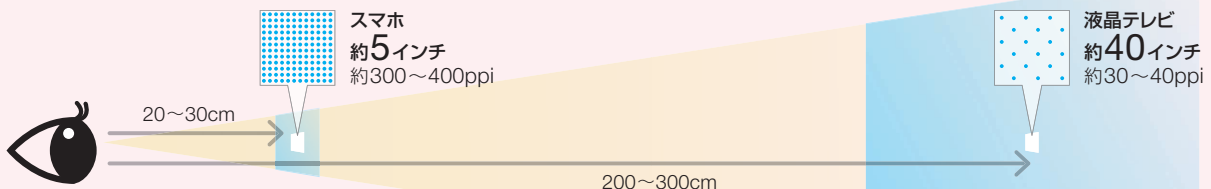
何かと話題の「スマート○○」ですが、その代表格はやはり「スマートフォン(Smartphone)」。
常にさまざまな情報とつながり、高性能で複雑な作業を視覚的に指で触って操作することができる、
本当に多機能で「smart(スマート=賢い)なphone」です。
さらに最近では、スマホより大きくパソコンより携帯性に優れたタブレット端末やタブレットPCも登場。
キーワードは「薄くて高精細、しかも高速で、さらにエコ」な高性能ディスプレイです。

■ テレビより高精細なスマホのディスプレイ

薄型テレビに近寄ってみると意外に画面が粗く、同じ距離でスマホを見比べるとかなり高精細であることに気がつきます。たとえば、「1インチに何個のピクセル(画素)が並ぶか」を示す解像度の単位であるppi(pixel per inch)は、標準的な薄型液晶テレビが約30～40ppiであるのに比べ、スマホは約300～400ppiと10倍も高精細です。

ではテレビもスマホ並みの解像度に、と40インチのテレビをスマホレベルの解像度でつくっても、テレビを見る2.5m程度の距離で人間が識別できるのは約35ppiまで。しかも製造コストは数百万円にもなります。パネル製造メーカは目の前20～30cmの5インチを見せるスマホと、2～3m先の40インチを見せるテレビとでつくり方を変えて、見た目の美しさと製造コストの両方を最適化しているのです。

スマホと液晶テレビの1インチあたりのppi比較イメージ





■ より速く、より薄く、さらにエコ

スマホ用の超高精細パネルを製造するには、テレビ向けよりも1～2回り小さい中小型パネルが、技術的にもコスト的にも適しています。さらに、その製造プロセスは、これまでのテレビ用大型パネルとほぼ同じであるため、生産設備も多少の変更を加えることで対応することができます。その一

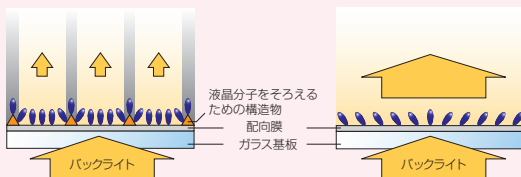
方で、最適な液晶パネル構造を採用することで、より少ないバックライトで明るい画面を可能にするなど、スマホに求められる「薄型化、省エネ化、高速応答性」に応えるため、テレビとは一味違った、さまざまな製造技術が活かされています。

図A. 液晶ディスプレイ

液晶の配列を変えることで応答を高速化。しかもより薄いバックライトで明るくハッキリと表示。

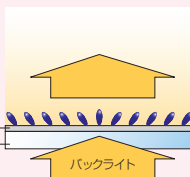
A-1. 従来タイプ

構造物が光の透過率を下げるため、強力なバックライトが必要。さらに並びの乱れや反応速度の遅さも課題。



A-2. 改良タイプ

光の透過率が上がり、効率化することでバックライトも薄くでき省エネに。さらに反応速度や画質も向上。

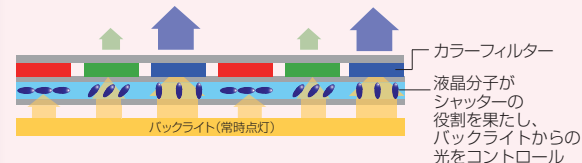


図B. 有機ELディスプレイ

RGBが自発光するためバックライトが不要。全体が薄くて軽く、しかも省エネ。



(参考:液晶ディスプレイ)



■ 進化し続ける「携帯」端末

実は携帯端末への要求の中で、もっとも高いハードルのひとつが「携帯化」です。ほんの数年前のパソコンを軽々超える性能を持つ上、通話やカメラ、さらにはGPSやジャイロ、温度や湿度などの各種センサーや処理ソフト、そして最も大きな特長であり、多くのユーザーに支持されているタッチパネル機能などの全てを手のひらサイズに収め、多

少の衝撃や濡れにも耐えて、初めて「携帯」端末として発表できるのです。

そこには、素材メーカーや装置メーカー、組み立てメーカーの多様な技術とノウハウが凝縮されており、そこでもまた、ウシオの「光」が活躍しています。

携帯端末を支えるウシオの光技術

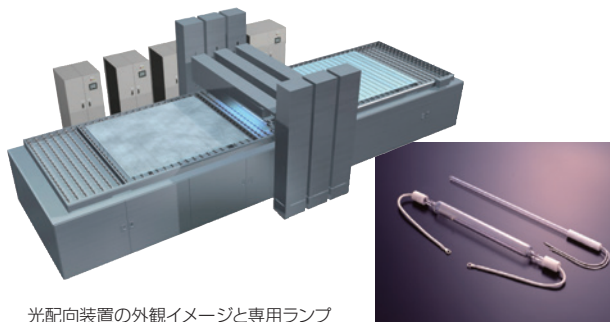
スマートフォンの登場により、新たな局面を迎えたFPD業界。市場においては、液晶テレビを中心とした大画面化競争が収束し、モバイル用途を軸とした多様化の時代に移行しています。技術面では中小型パネルのモバイル仕様に向けた新たな製造プロセスの需要が急増し、製造面では中小型パネル製造ラインの建設や有機ELラインへの投資が進んでいます。ウシオは、これまでの大型液晶製造プロセスで培った光技術をもとに、これら新たなFPD製造に向けた光技術を幅広く提供しています。

■ 液晶を光で並べて高品質にー光配向ー

液晶テレビには、液晶分子を並べるための「配向処理」と呼ばれるプロセスがあります。液晶は一定方向に規則正しく並び、電気信号にあわせて動くことでさまざまな表示が可能になるのですが、従来の並べ方は「布で直接、一定方向にこする」「突起物を配置して沿わせる(P3 図A-1)」という方法がとられていました。ですがこれでは環境面やコスト面に加え、肝心の画質面で多くの課題がありました。これを解決したのが、ウシオの「光配向技術」です。

布で直接こするのではなく、UVキュア(光硬化)技術をベースに、光で非接触の状態では液晶を並べることで、ゴミや静電気などによる歩留まり低下を防ぐとともに、製造工数の削減によるコストダウン、さらにはコントラスト向上、

液晶分子の反応速度向上、バックライトからの光の透過率向上による大幅な消費電力の削減などを実現しました(P3 図A-2)。



光配向装置の外観イメージと専用ランプ

■ 丈夫でキレイなタッチパネルにーUVキュアー

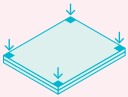
感覚的な操作を可能にしたタッチパネル。その多くは、液晶や有機ELディスプレイの上にタッチパネルを、さらにその上にカバーガラスを貼り合わせてつくられており、それらの間には中空ではなく、紫外線で硬化する樹脂がシート状もしくは液体で充填されることが増えています。これは、光の屈折によるディスプレイの視認性低下や気温差による水滴の防止、操作反応性の向上などさまざまな理由がある

のですが、その貼り合わせでもウシオの光技術が活躍しています。

熱によるカバーガラスの変形や繊細なディスプレイの不具合を防ぐための低温技術を駆使した全面照射をはじめ、スポットファイバによる点硬化、ラインファイバによる側面硬化など、ウシオではメカごとに異なる貼り合わせ方法に対応した製品をラインアップしています。

メーカーや工程によって異なる貼り合わせ方法と、ウシオの光製品

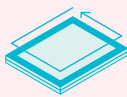
スポット照射タイプ



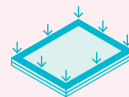
側面照射タイプ



追従照射タイプ



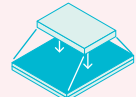
周辺一括照射タイプ



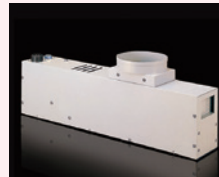
全面スキャン照射タイプ



全面一括照射タイプ



スポットUV照射装置「スポットキュア」



UV硬化装置「ユニキュアシステム」

さらに、「エキシマ光照射」による前処理やプロセス管理に必要な紫外線光量計、パネルの透過率も測定できる分光放射照度計など、ユーザーニーズにあわせたトータルソ

リューションを提供しています。タッチパネルはもちろん、スマホやタブレット端末の製造プロセスでも、ウシオの光技術は欠かせないものとなっているのです。



株主の皆さまにおかれましては、
ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、日頃より格別のご支援を賜り、
厚く御礼申し上げます。
第50期中間(2012年9月)報告書「PRISM」をお届けし、
当第2四半期連結累計期間のウシオグループの事業環境や
各事業の概況、および今後の取り組みについて
ご報告申し上げます。

世界経済の減速懸念が広がる中で減収減益へ

当第2四半期連結累計期間(2012年4月1日～2012年9月30日)における世界経済は、全体としては緩やかな回復が続いているものの、欧州の債務問題のほか中国の景気の減速懸念が強まりました。国内経済は復興需要等を背景に底堅さは見られましたが、円高や電力問題などに加え、世界経済の減速懸念が広がり不透明な状況で推移しました。

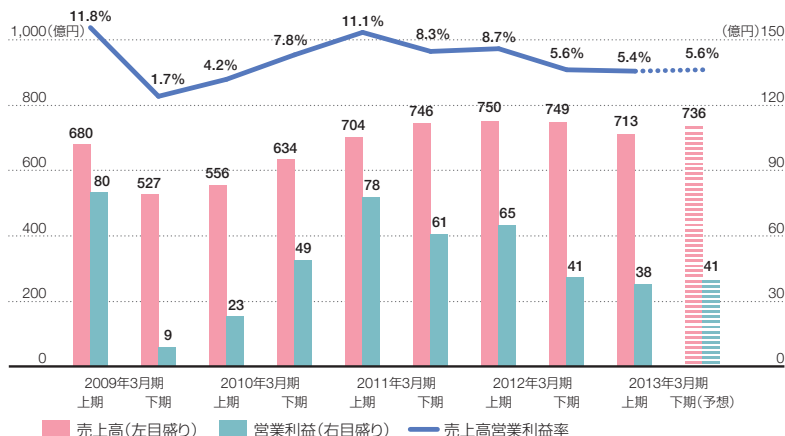
このような経済環境のもと、映像機器関連分野では先進国を中心にデジタルシネマプロジェクトが相当程度、普及したことにともない、販売台数は前年比、前年同期比ともに減少した一方で、ノンシネマ製品の販売は底堅く堅調に推移しました。液晶・半導体関連分野においては、露光用UVランプのリプレイス需要が低迷したほか、液晶テレビやパソコン等の需要低迷が長期化し設備投資の抑制や延期をする影響を大きく受け、光学装置の販売が予想を大幅に下回るなど低調に推移しました。

当社グループでは、引き続き将来に向けた新技術・新製品の研究開発に積極的な投資を行なう一方、生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた生産・販売体制の整備・拡充、適地生産の促進等、全グループを挙げて業績の向上に注力してまいりましたが、売上高は前年同期比5.0%減の713億1千4百万円、営業利益は前年同期比41.0%減の38億3千7百万円となりました。

セグメント別では装置事業の売上高は前年同期比8.0%減の432億6千1百万円、光源事業の売上高は前年同期比0.2%減の265億6千8百万円となりました。

経常利益は、前期に計上した投資有価証券売却益が当期は無くなったこともあり前年同期比53.2%減の32億3百万円、四半期純利益は前年同期比71.5%減の13億3百万円となりました。

半期業績推移



今後の見通しについて

通期業績の見通しとして、装置事業では映像装置分野において先進国でのデジタルシネマプロジェクトの販売台数が引き続き漸減して推移すると想定していますが、新興国向けを中心に新製品を投入するなど、市場シェアのさらなる拡大を目指しています。光学装置分野では、大型液晶パネル関連の設備投資の低迷が想定されるものの、中小型パネルでの高精細化にともなう設備投資、特に光配向装置などの新プロセス用装置を中心に需要を見込んでいます。

光源事業ではシネマプロジェクト用クセノンランプの販売が下期も堅調に推移、市場シェアも拡大するものと想定しています。データプロジェクト用ランプは、ユーザーからのハイワットテージ製品の評価が高く、当社のハイエンドに軸を置く事業戦略が有効に機能しており、今後も堅調な販売を見込んでいます。一方で、露光用UVランプは、リプレイス需要の本格的な回復には時間を

要するものと想定しています。ハロゲンランプは、OA用が欧州での景気低迷の影響を受け、複写機やレーザープリンター用の需要が低下する可能性がある一方、コスト競争力と製品の信頼性を有しており、引き続き高い市場シェアを維持、拡大していきます。

当社グループでは、中期ビジョンで掲げたウシオグループのあるべき姿「光関連事業において、世界No.1のブランドと技術力を誇り、顧客ニーズを満たす最適なソリューションを常に提案できる【光創造企業】を目指す」を実現すべく、引き続き成長のための重点事業戦略を推し進めていきます。

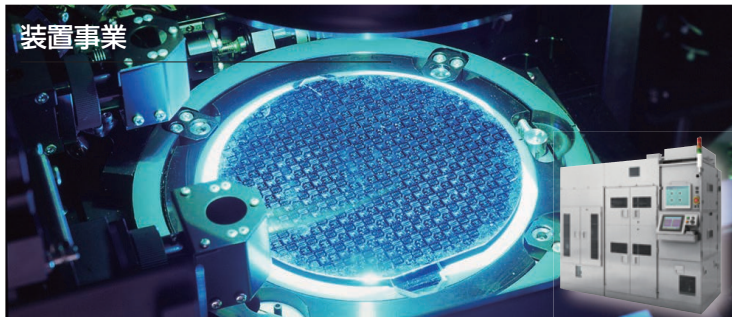
株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2012年11月

代表取締役社長・CEO

菅田史朗

セグメント別の概況



主な商品

露光装置、光硬化装置、光洗浄装置など光学装置

デジタルシネマプロジェクタ、コントロールルーム、シミュレータ、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステムなど映像装置

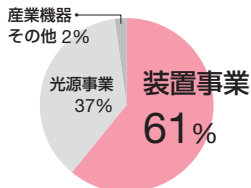
紫外線皮膚治療器、血管可視化装置など医療機器

次世代半導体リソグラフィ用EUV光源装置

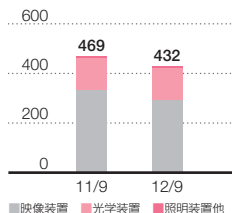
主要数値

売上高構成比

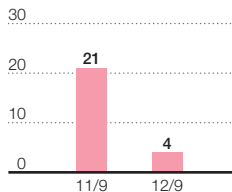
(2012年9月期)



売上高(億円)



セグメント利益(億円)



当第2四半期の業績

当第2四半期連結累計期間の装置事業は、映像装置分野でのデジタルシネマプロジェクタが先進国において相当程度普及をしたことにともない販売台数は減少した一方、ノンシネマ分野の需要は各地域において堅調に推移しました。また、光学装置分野ではスマートフォンやタブレット端末の市場は好調に推移したものの、テレビやパソコンの長期化する需要低迷を受け、液晶・半導体、LED関連、その他電子部品関連は低調に推移しました。その結果、売上高は、前年同期比8.0%減の432億6千1百万円となりました。外部顧客に対する売上高のうち、装置事業が占める割合は60.6%となりました。セグメント利益は、今後の業績向上、業容拡大につながる新技術・新製品の研究開発投資を積極的に進めた結果、前年同期比78.1%減の4億7千8百万円となりました。

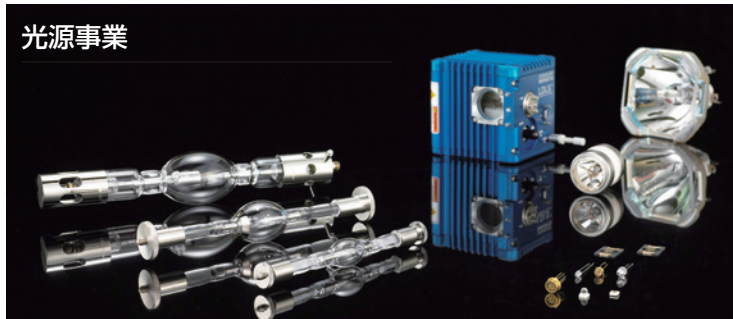
市場環境、2013年3月期の見通し

映像装置分野では、デジタルシネマプロジェクタの普及にともなう販売台数の漸減は想定内で推移すると見込んでいます。ノンシネマ分野の需要は今後も各地域において堅調に推移するものと見込まれ、シネマ製品の漸減を補う潜在力を持っていると認識しています。

光学装置分野の液晶関連では、大型液晶パネル等の設備投資が引き続き低迷することが想定される一方で、中小型パネルでの高精細化、特に新プロセス用装置などの設備投資需要が見込まれるものの、LED関連その他電子部品関連市場における設備投資の本格的な回復には時間を要すると想定しています。

※売上高には、内部売上高または振替高が含まれています。

光源事業



主な商品

半導体／FPD／プリント基板製造装置用UVランプ

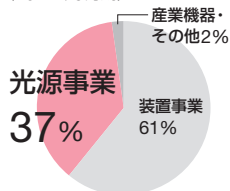
各種監視、生体認証、光センサ用などLED

照明用、データプロジェクタ用、シネマプロジェクタ用、OA機器用など各種ランプおよびLED

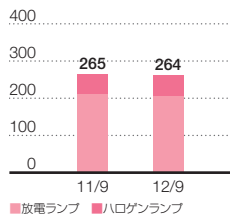
主要数値

売上高構成比

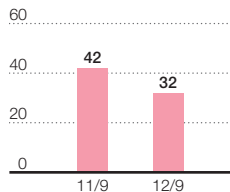
(2012年9月期)



売上高 (億円)



セグメント利益 (億円)



当第2四半期の業績

当第2四半期連結累計期間の光源事業は、デジタルシネマプロジェクタの普及にともなう、シネマプロジェクタ用クセノンランプの販売が堅調に推移し、ハロゲンランプもOA関連を中心に前年同期を上回る販売がありました。その一方、露光用UVランプは、液晶・半導体関連メーカーの設備稼働率で緩やかな回復傾向が見られたものの弱含みであり、リプレイス需要も低調に推移した結果、売上高は前年同期比0.2%減の265億6千8百万円となりました。外部顧客に対する売上高のうち、光源事業が占める割合は37.0%となりました。セグメント利益は、各種ランプの長寿命化、高輝度、高効率化等、製品開発を推進するとともに固体光源(LED・LD)製品の研究開発を積極的に進めた結果、前年同期比24.1%減の32億3千7百万円となりました。

市場環境、2013年3月期の見通し

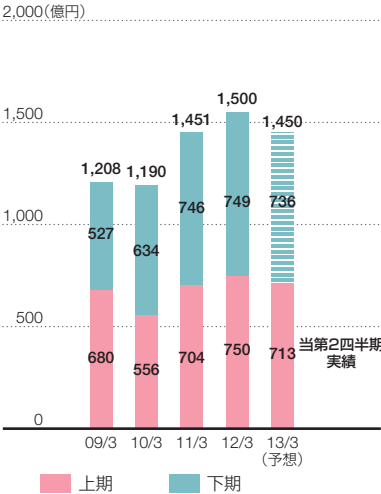
シネマプロジェクタ用クセノンランプの販売は、今後も引き続き堅調に推移すると想定しており、ハロゲンランプはコスト競争力と製品の信頼性を強みに、引き続き市場シェアを維持、拡大していきます。一方、露光用UVランプはリプレイス需要の回復には時間を要すると想定しています。

※売上高には、内部売上高または振替高が含まれています。

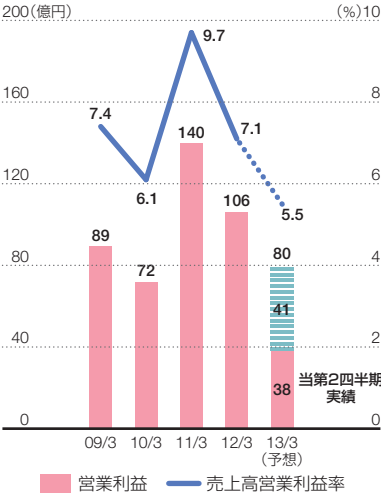
第50期第2四半期の事業概況

数字で見るウシオ (連結ベース)

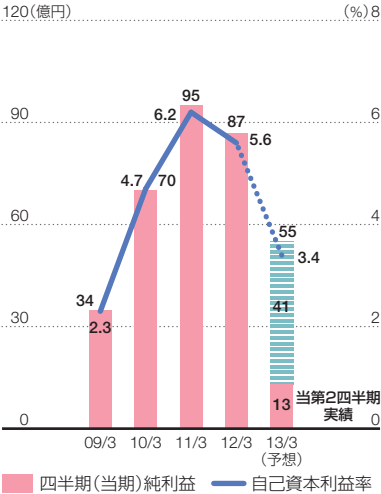
売上高



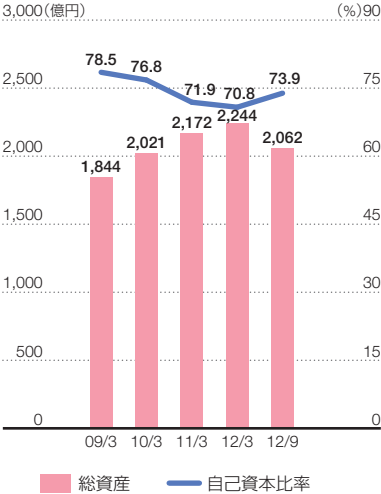
営業利益／売上高営業利益率



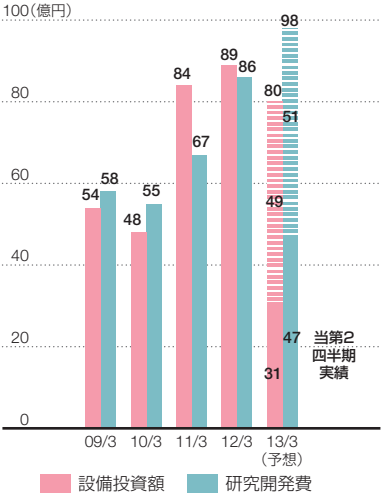
四半期(当期)純利益／自己資本利益率(ROE)



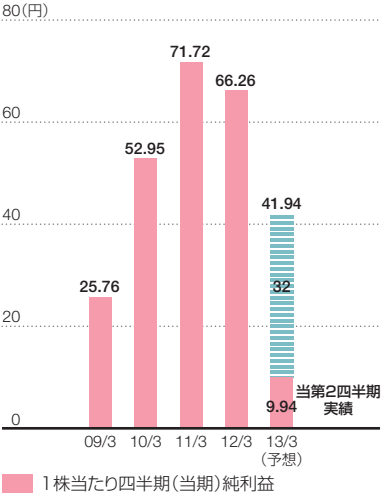
総資産／自己資本比率



設備投資額／研究開発費



1株当たり四半期(当期)純利益



※数字はすべての表示数未満の位を切り捨てて記載しております。

簡便・迅速・高感度な オンサイト微量分析キットを開発

ウシオ電機は、不正薬物などをその場で簡便・迅速・高感度に検知できるオンサイト微量分析キット(蛍光標識試薬と蛍光測定装置)の開発を完了し、2013年1月から財務省を通じ税関における不正薬物検知用として試験導入されることが決定しました。

本製品は、世界で初めて新規蛍光免疫測定素子「Q-body」*1を利用した免疫測定法*2を採用しており、採取した試料を蛍光標識試薬の入ったセルに入れ、装置にセットするだけで90秒以内にナノグラムレベルの抗原の有無が判定できます。

また、試料に応じた蛍光標識試薬を使用することで、不正薬物だけではなく、食品に含まれる有害物質や環境汚染物質、血中の各種マーカー、感染症の原因である細菌などを同じ装置で検出できます。すでに、これら用途に向けた抗体試薬の開発にも着手しており、2013年春以降、順次販売を開始する予定です。

*1 蛍光強度の変化を測定することで、抗原を検知することが可能な蛍光免疫測定素子「Quenchbody」のこと。高感度で特異性の高い免疫測定法であり、さまざまな物質の微量分析を簡便、迅速、高感度に行なうことができる世界初の抗体技術。

*2 通常、動物は外敵(抗原)が体内に侵入してくると、抗原に対して抗体(タンパク質の一種)を産生し、抗原を不活性化する。この免疫メカニズムを使って特定の測りたい物質にだけ選択的に反応する抗体を使い、微量な物質を測定する方法。



蛍光測定装置(左)と蛍光標識試薬イメージ(右)

GaN on GaN シングルコアLED搭載 ハロゲンランプ 代替LED電球「Superline LEDシリーズ」の販売を開始

ウシオ電機は、2012年11月1日より日本、中国、台湾、韓国、シンガポール、ドイツなどの子会社を通じ、GaN(窒化ガリウム)基板を使用した米国Soraa社製の次世代型LED電球「Superline(スーパーライン)LED



シリーズ」(以下、スーパーラインLED)の販売を開始します。

スーパーラインLEDは、“GaN(窒化ガリウム)基板上にGaN系半導体を生成する技術”によって生み出されたLEDチップ「GaN on GaN LED」を搭載した、MR16ハロゲンランプ代替のLED電球です。GaN on GaN LEDは発光効率や光の取り出し効率が高く、放熱性にも優れ、従来のサファイア基板、シリコン基板を採用したLEDチップでは難しかった大電流化、高照度化を両立し、モジュールの小型化も可能にします。

東京スカイツリータウンの「すみだ水族館」にLED照明を納入



ウシオライティングは、東京スカイツリータウン®内の大型集客施設として2012年5月22日にグランドオープンした「すみだ水族館」へLED照明を納入しました。

すみだ水族館は8つの展示で構成されており、ウシオライティングのLED照明が導入されたのは、その中の「水といのちのたわむれ～ペンギン・オットセイ～」ゾーンです。2層吹き抜け空間に水量約350tの大きなゆりかご型水槽が配された展示空間で、LED照明が1日単位での光の移り変わりを再現、演出します。昼は自然光に近い照明で動物達の元気な姿を、夜は薄暗い照明で寝ている姿を見ることができます。

連結決算

貸借対照表(要約)

(単位: 百万円)

科目	第50期第2四半期 (2012.9.30)	第49期 (2012.3.31)	科目	第50期第2四半期 (2012.9.30)	第49期 (2012.3.31)
資産の部			負債の部		
流動資産	128,626	143,120	流動負債	34,367	40,634
現金及び預金	38,597	41,692	支払手形及び買掛金	15,584	18,477
受取手形及び売掛金	32,866	37,582	短期借入金	2,947	4,383
有価証券	10,383	12,043	その他	15,835	17,773
商品及び製品	19,073	22,207	固定負債	16,454	21,729
仕掛品	7,700	8,314	長期借入金	4,682	7,439
原材料及び貯蔵品	8,625	9,918	繰延税金負債	4,589	5,954
繰延税金資産	4,678	5,065	その他	7,182	8,335
その他	7,141	6,819	負債合計	50,822	62,364
貸倒引当金	△439	△523	純資産の部		
固定資産	77,583	81,292	株主資本	156,757	158,341
有形固定資産	36,039	37,827	資本金	19,556	19,556
建物及び構築物(純額)	16,604	16,780	資本剰余金	28,371	28,371
機械装置及び運搬具(純額)	4,223	4,803	利益剰余金	121,060	122,642
土地	8,777	8,885	自己株式	△12,230	△12,228
その他	6,432	7,357	その他の包括利益累計額	△4,432	524
無形固定資産	3,536	3,900	その他有価証券評価差額金	10,391	12,628
投資その他の資産	38,008	39,564	為替換算調整勘定	△14,823	△12,103
投資有価証券	34,958	36,905	少数株主持分	3,062	3,183
その他	3,049	2,658	純資産合計	155,387	162,048
資産合計	206,210	224,412	負債純資産合計	206,210	224,412

総資産は、2,062億1千万円となり、前期末に比べ182億2百万円減少しました。主な減少要因は、商量減少による「受取手形及び売掛金」および「商品及び製品」の減少、株式市況の低迷による「投資有価証券」の減少です。

負債は、508億2千2百万円となり、前期末に比べ115億4千2百万円減少しました。主な減少要因は、商量減少による「支払手形及び買掛金」の減少、銀行借入の返済による「短期借入金」および「長期借入金」の減少、株式市況が低迷したことによる「投資有価証券」の含み益の税金部分である「繰延税金負債」の減少です。

純資産は、1,553億8千7百万円となり、前期末に比べ66億6千万円減少しました。主な減少要因は、保有投資有価証券の含み益の減少による「その他有価証券評価差額金」の減少、円高による「為替換算調整勘定」の減少、配当金の支払いによる「利益剰余金」の減少です。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第50期第2四半期 (2012.4.1～2012.9.30)	第49期第2四半期 (2011.4.1～2011.9.30)
売上高	71,314	75,098
売上原価	47,984	50,431
売上総利益	23,329	24,666
販売費及び一般管理費	19,492	18,160
営業利益	3,837	6,506
営業外収益	861	2,029
営業外費用	1,494	1,687
経常利益	3,203	6,848
特別利益	17	2,973
特別損失	397	2,003
税金等調整前四半期純利益	2,824	7,818
法人税、住民税及び事業税	1,655	4,271
法人税等調整額	△101	△1,171
法人税等合計	1,553	3,099
少数株主損益調整前四半期純利益	1,270	4,718
少数株主利益	△32	153
四半期純利益	1,303	4,564

将来に向けた新技術・新製品の研究開発に積極的な投資を行なう一方、生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた生産・販売体制の整備・拡充、適地生産の促進等、全グループを挙げて業績の向上に注力してきました。

その結果、**売上高**は前年同期比5.0%減の713億1千4百万円、**営業利益**は前年同期比41.0%減の38億3千7百万円、**経常利益**は前年同期比53.2%減の32億3百万円、**四半期純利益**は前年同期比71.5%減の13億3百万円となりました。

包括利益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第50期第2四半期 (2012.4.1～2012.9.30)	第49期第2四半期 (2011.4.1～2011.9.30)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,270	4,718
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,238	△1,120
為替換算調整勘定	△2,769	△4,335
持分法適用会社に対する持分相当額	—	12
その他の包括利益合計	△5,007	△5,443
四半期包括利益	△3,736	△725

営業活動によるキャッシュ・フローは、78億9千3百万円の収入となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益の計上28億2千4百万円、減価償却費の発生32億8千9百万円、売上債権の減少36億9千1百万円、および、たな卸資産の減少35億5千2百万円による収入があった一方で、仕入債務の減少25億3千万円、および法人税等の支払29億9千万円の支出によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、83億8千7百万円の支出となりました。主な要因は、定期預金の払戻75億3千1百万円、有価証券の売却21億1千7百万円による収入と、定期預金の預入95億8百万円、有価証券の取得35億3千8百万円、有形固定資産の取得32億5千8百万円、および投資有価証券の取得27億8千7百万円の支出によるものです。

キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第50期第2四半期 (2012.4.1～2012.9.30)	第49期第2四半期 (2011.4.1～2011.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,893	4,080
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,387	6,801
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,540	△5,262
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,084	△1,352
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△8,119	4,266
現金及び現金同等物の期首残高	41,585	34,954
現金及び現金同等物の四半期末残高	33,465	39,221

財務活動によるキャッシュ・フローは、65億4千万円の支出となりました。主な要因は、長期借入金の返済23億7千8百万円、および配当金の支払28億8千3百万円の支出によるものです。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (2012年9月30日現在)

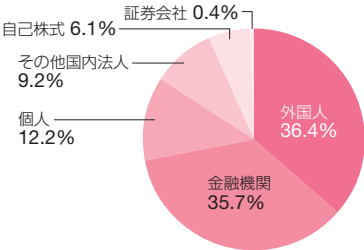
発行済株式総数 139,628,721株
株主 14,993名

大株主の状況 (200万株以上)

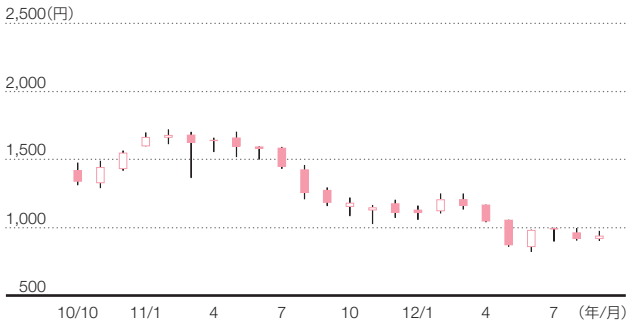
株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,912	6.38%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,966	4.27%
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20%
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,248	3.04%
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	4,115	2.94%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83%
RBC IST LONDON-LENDING ACCOUNT	3,921	2.80%
ノーザントラスト カンパニー (エイブイエフシー)	3,705	2.65%
サブ アカウント アメリカンクライアント	3,616	2.58%
株式会社りそな銀行	3,616	2.58%
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーション ピー リミテッド	3,373	2.41%
牛尾治朗	3,201	2.29%
ジェービー モルガン チェース バンク 385174	3,067	2.19%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	2,924	2.09%
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505104	2,555	1.83%
メロンバンク エヌエー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	2,404	1.72%
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71%
野村信託銀行株式会社(投資口)	2,151	1.54%

※上記のほか、当社が所有している自己株式8,500千株があります。
※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

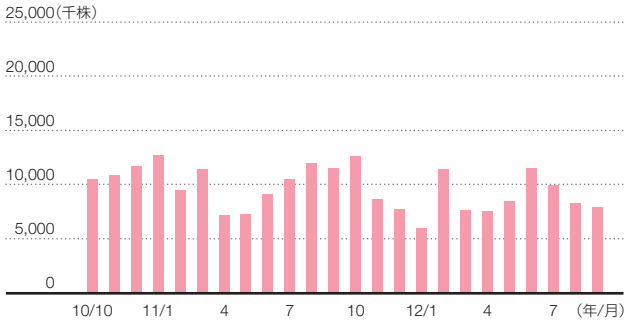
株式の分布状況



株価の動き



株式売買高



会社概要

設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員 (2012年9月30日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
代表取締役社長	菅田 史朗
取締役	大島 誠司
取締役	浜島 健爾
取締役	徳廣 慶三
取締役	多木 正
取締役	牛尾 志朗
取締役	多田龍太郎
取締役	伴野 裕明
取締役	後藤 学
取締役(社外)	中前 忠
常勤監査役	中一 進
常勤監査役	中山 繁樹
常勤監査役	神崎伸一郎
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	宮崎 靖亮
監査役(社外)	塩畑 一男

従業員数 (2012年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,813名
国内グループ計	600名
海外グループ計	3,085名
合計	5,498名

グループ会社 (2012年9月30日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪府大阪市

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社
株式会社ジーベックス
株式会社ウシオスペックス
日本電子技術株式会社
株式会社エピテックス
株式会社アドテックエンジニアリング
他6社

海外グループ会社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- USHIO CANADA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.
- Vista Controls Systems, Corp.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht- und Vakuumtechnik GmbH
- Dipl.-Ing. Reinhold Eggers GmbH
- NATRIUM Sp. z o.o.
- XTREME technologies GmbH

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.
- TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

他15社

株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
基 準 日	3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
利益配当金受領	3月31日
株 主 確 定 日	なお、中間配当制度は採用しておりません。
公 告 掲 載 URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
1単元の株式数	100株
株式銘柄コード	6925
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電 話 照 会 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行の本店および全国各支店で 行なっております。

住所変更、単元未満株式の買取などのお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行ないます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましては、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

発行:ウシオ電機株式会社 広報IR室
〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1
TEL: 03-3242-1815 FAX: 03-3245-0589

<http://www.ushio.co.jp>



この印刷物は、環境に優しい用紙と、
ベジタブルインキを使用しています。

P・R・I・S・M PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するウシオの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。